1. 日露関係の黎明

1.1. 日露の出会いアイヌ･モシリへの進出

1.1.1. アイヌ人の土地（アイヌ・モシリ）だった千島列島とサハリン

日本語の「千島」列島にあたるロシア語の「クリル」諸島 Курильские острова の語源は、アイヌ語の「クル」kur（「ひと」の意）から来ている。

千島列島はすべてアイヌ語地名地域

歯舞（「ハボマイ」）諸島＝ハポ（母）・マ（泳ぐ）・イ（ところ）

水晶（「スイショウ」）島＝シィ（豊かな）・イソ（磯）

秋勇留（「アキユリ」）島＝ア（私）・キロロ（高台）・モシリ（島）

国後（「クナシリ」）島＝クンネ（黒いところ）・アン（ある）・シリ（島）

択捉（「エトロフ」）島＝エト（鼻）・オロ（そのところ）・プ（盛り上がる）

サハリン中部のポロナイスク（旧日本名：敷香＝シスカ）はサハリン最大の川、ポロナイ川河畔にあるところからつけられた。ポロ（大きい）・ナイ（川）

1.1.2. 日露の出会い

1695 or 6 年	大阪谷町筋の質屋「万久」の息子・伝兵衛、カムチャトカに漂着
1697 年	アナディリ砦のカザーク隊長アトラーソフ、カムチャトカ西岸イチャ河のほとりで「礼儀正しい」日本の漂着民デンベイ（伝兵衛）に出会い、彼をヤクーツクに送る
1701 年	デンベイ、モスクワに入る
1702 年 2 月	ピョートル 1 世、デンベイに謁見し、日本語教育の実施を命ずる
1710 年	日本の漂流民サニマ（佐沼 or 浅沼という名字？）、カムチャトカに漂着
1711-13 年	サニマ、カザークのコズィレフスキーによる千島列島北部 2 島の探検に同行
1729 年	薩摩のソーザ（惣左？）とゴンザ（権佐？11 歳）、カムチャトカに漂着。ペテルブルクへ移送
1736 年	サンクト・ペテルブルクにソーザおよびゴンザを教師とする日本語学校が開校 この頃、ゴンザと科学アカデミー司書アンドレイ・ボグダーノフ、露和辞典（正確には露薩辞典）と日本語（正確には薩摩弁）文法書を執筆 ペテルブルクの日本語学校は 1750 年代にイルクーツクに移設（1810 年頃まで存続）
1754 年	松前藩、クナシリ島に「場所」（アイヌとの交易場）設置
1766〜69 年	カザークのチョールヌイ、ウルップ島、エトロフ島に至り、アイヌにヤサーク（毛皮税）を課す。チョールヌイの乱暴狼藉にアイヌの不満高まり、1969 年にチョールヌイが引き上げたあと、ロシア人がアイヌ人に襲撃され 21 人が殺害
1772 年	日本との接触の模索始まる
1766 年	日本語を解する貴族アンチーピンとイルクーツクの商人シャバーリン、ウルップ島を訪れ、アイヌと和解
1775 年頃	対露反乱軍に加わりカムチャトカ流刑となったポーランド人のペニョフスキーの反露情報、オランダ商館経由で流布
1778 年	シャバーリン、根室で松前藩士に書簡を渡し交易を求める
1779 年	シャバーリン、厚岸で松前藩代表と会うが、交渉進展せず
1781〜3 年	工藤兵助『赤蝦夷風説考』。ペニョフスキーをロシアと戦争したドイツ人で、オランダも反露説で日本側を操作しようとしていると説く
1775 年	幕府、千島列島、サハリンの探検開始（最上徳内ら）

1786 **年** **ペニョフスキーの反露情報をオランダ商館経由で入手（**1775 **年）した林子平、ロシアを強く警戒すべきと説く『三国通覧図説』を著す**
1787 **年** **林子平『海国兵談』**
1789 **年** **クナシリ島でアイヌ人が反乱、松前藩が鎮圧**

1.2. **日露開国交渉の始まり**

1.2.1. **大黒屋光太夫とキリル・ラックスマン**

1782 **年** **伊勢国白子の回米船神昌丸の船頭、大黒屋光太夫ら乗組員** 16 **名、**7 **ヶ月の漂流の末、アレウト列島アムチトカ島に漂着。ロシア人に引き取られ、そこで** 4 **年間を過ごす（**7 **人死亡）**
1787 **年** **光太夫ら、船を建造、カムチャトカに渡り（そこで** 3 **名死亡）、カムチャトカ長官に帰還を願い出る**
1789 **年** **光太夫、カムチャトカ長官の手紙を持ってイルクーツクの東シベリア総督に帰国を嘆願するも、拒否される。光太夫、フィンランド人の博物学者・化学者でペテルブルグ大教授のキリル・ラックスマン** Лаксман, Эрик (Кирилл) Густавович (1737-96)**に出会う**
1791 **年** **キリル・ラックスマン、光太夫をペテルブルグに連れて行く。到着して** 4 **ヵ月後にエカチェリーナ** 2 **世に拝謁を許され、帰国が許可される。キリル・ラックスマンの子息の陸軍中尉アダム･ラックスマンを通商使節として日本に派遣する案が採用される（皇帝の親書ではなく、シベリア総督ピーリの書簡を持って訪日すると決定）**
1792 **年** **使節一行と光太夫らオホーツクを出航し根室に入港**
1793 **年** **アダム・ラックスマンの船、箱館に入港し、陸路で松前に入る。幕府代表石川将監、シベリア総督ピーリの書簡受け取りを拒否し、長崎入港許可証を与える**
1794 **年** **桂川甫周『北槎聞略』（ほくさぶんりゃく**:1794**）（光太夫からの聞き取り。岩波文庫として** 1990 **年出版）**

1.2.2. **レザーノフ使節と高田屋嘉兵衛**

1799 **年** **レザーノフ** Резанов, Николай Петрович (1765-1807)**露米会社設立（アラスカ、カリフォルニアへの毛皮商人の進出）**
1802 **年** **アレクサンドル** 1 **世、レザーノフの対中･対日交易の可能性を探る提案を許可**
1804 **年** **レザーノフ、皇帝の国書を持って長崎入港**
1805 **年** **交渉は失敗**
1806〜7 **年** **レザーノフ、サハリンを襲撃**
1811 **年** **ディアナ号艦長ゴロヴニン少佐** Головнин, Василий Михаилович (1776-1831)**、クナシリ島の湾内で攻撃され、捕虜となる**
1812 **年** **副艦長リコルド、高田屋嘉兵衛の協力で幕府のゴロヴニン釈放を勝ち取る**

1.3. **アレクサンドル** 1 **世の勅令**

1821 **年** 9 **月** 16 **日（露暦** 9 **月** 4 **日）**

アメリカ西海岸からロシア領の北の島々で外国人が捕鯨や漁業活動に従事するのを禁止し、その中で「クリル諸島、すなわち то есть **ベーリング海峡から始まってウルップ島南岬北緯** 45 **度** 50 **分に至るまでの島々」との記述がある。ロシアによるクリル諸島の範囲の定義として注目される。**

→当時のロシア帝国は、クリル諸島の南端はウルップ島であり、クナシリ島、エトロフ島はクリル諸島に含めていないという解釈が成り立つ。